



③ 創刊20周年(1980年)



② 創刊10周年(1970年)



① 創刊号(1960年)



⑥ 創刊50周年(2010年)



⑤ 創刊40周年(2000年)



④ 創刊30周年(1990年)

本紙創刊60周年記念特集

東京交通新聞社

【社歴】

◎1960年(昭和35年)9月27日、「東京交通新聞」創刊、タクシー、バスなど交通分野の全国専門紙を発行し、現在に至る。東京を拠点に、関東(本社内)、関西(大阪)、中部(名古屋)、西日本(福岡)などへ支店網を拡大する。

◎1975年、公益社団法人日本専門新聞協会(当時社団法人)に加盟。

◎1986年3月、現本社(東京都新宿区新宿2-13-10、武蔵野ビル)に移転。

◎1994年6月、電子編集制作システムの運用を開始。

◎2009年、電子版(新聞と同内容のウェブ版「新聞オンライン、COM」)の発行開始。

◎2015年、メールマガジン(記事のインデックスや速報ニュースなど)の配信スタート。

◎2019年7月、創業者・二村博三死去、90歳。

【発行形態】

週刊(毎週月曜発行、電子版も同じ)、B3判(フランクセットサイズ)、通常8〜16ページ。

【紙面の内容】

タクシー・ハイヤー、バス、自治体、NPOなど自家用有償旅客運送、観光、車両運行管理業、運転代行、ライドシェア、新モビリティ、自動車・部品メーカー、ディーラー、通信機器、燃料、大学・研究機関などの動向を取り上げる。国土交通省など行政官庁の施策や政界の動きを報道、解説する。

【紙面建て】

総合面(総合、経営・労務、社会・文化)に、個人タクシー面、首都圏版、近畿圏版、中部圏版、北陸信越版、東日本版、西日本版、くらしの足音、関連産業面で構成する。

【所属記者会】

第一国会記者クラブ、国土交通省交通運輸記者会、国土交通省建設専門紙記者会、関東運輸局記者会(ハイタク等専門紙)、近畿運輸局運輸記者会(ハイタク部会)、東京都庁記者会、日本バス記者会、日本ハイヤー・タクシー記者会、自販連(日本自動車販売協会連合会)記者会など。

【役員】

代表取締役社長兼編集局長 仁平英紀
取締役管理本部長 染谷祐二
取締役営業局長 二村如信

【歴代社長】

①二村博三(創業者、故人)＝1960年9月～2013年6月
②亀田邦敏(国土交通省出身、元気象庁次長・元北総鉄道社長)＝2013年7月～2014年3月
③二村博三＝2014年3月～2015年7月
④横山敬一郎(日本通運出身、元日通総合研究所社長)＝2015年7月～2017年6月
⑤武本英之(社員、故人)＝2017年6月～2018年9月
⑥二村博三＝2018年10月～2019年3月
⑦仁平英紀(社員、49歳)＝2019年4月～

本紙創刊号～50周年記念号

①60年前の記念すべき創刊号。1行14字取りのため、文字がぎっしり。池田男内閣の「所得増進計画」に絡んだ記事がトップを飾った。題字のデザインが今も祝祭の文意が予定より足らなかったのか、空白が目立つ。一週2回発行「タクシー経営研究」の設置などをつらつらと題字の「公正な報道」で、業界の成長と共にと書いた当時の二村社長。この編集タンスは今も受け継がれている。④漫画家の故・小島氏のオリジナル作画を大きく掲載。バブル崩壊期で、運輸の規制緩和が胎動。「空車」がキーワードに。⑤新世紀だが、紙面に明るさは見られず、「黒船」のイラストが登場。規制緩和やIT革命に乗り遅れないよう、警鐘を鳴らした。⑥実物はカラー版。羽田空港の国際化と外国人観光客の受け入れ対策を取り上げ、高揚感を醸成させた。大臣祝辞は右面に配置。

⑥新聞制作室の一コマ。専門紙では珍しく、自前の組版システムを持つため、記事・写真の急な差し替えなど柔軟に紙面を作れる。編集デスクと整理マン、記者が日々、活発にやり取りする。右端に見えるのは、新聞大の用紙が出てくる大刷りプリンター⑦東京交通新聞の本社が入る新宿のビル

大和自動車交通社長

前島 忻治

創刊60周年、おめでとうございます。



貴紙のおかげで業界の情報を的確に理解、把握することができ

て、ありがとうございます。
東京交通新聞の編集陣には、①迎主主義の排除②批判精神の高揚③社会的視野に立脚④公正、的確な報道⑤親切、有益、便利新聞づくり

海外の状況や制度を記事に

——と銘記されております。この姿勢をこれからも堅持され、未曾有の変革期にあるわれわれ業界の羅針盤として、さらなる活躍を願います。
歴代の社長さんを振り返りますと、二村氏は温厚で信念の強い方でした。俳句が趣味で懐の深い方でした。横山氏は知識豊富な九州男児でした。武本氏とは、親しく情報交換をしました。仁平社長には、記者としてのセンスの良さを感じております。
今後できれば、海外のタクシーの状況、制度についても取り上げていただきたいと思います。
70年、そして100年への発展を祈念しております。

国際自動車社長

西川 洋志

創刊60周年、お喜び申し上げます。ここ数年、タクシー業界は激動の渦



にあり、他社や業界の情報は、経営戦略上において、とても貴重なものと捉えております。その情報を公平公正に、素早く伝えるいただける御社の新聞は大変参考になり、感謝いたします。

高い取材力に基づく情報を

したが、コロナ禍の影響で、事業はもとより、一連の記念行事にも大きな影響を受けました。大事勢に迫り、外にアヒルする場が制限されてしまいました。そのような中、御紙をはじめ業界紙には重要なメッセージ、大感謝しております。
今後、ハイタク業界においてもデジタルトランスフォーメーションの活用が浸透し、お客さまにもさらにサービスが向上するとともに、乗務社員の負担軽減に寄与するものと考えられます。ますます御紙の高い取材力に基づく情報を期待しております。

帝都自動車交通社長

篠崎 敦



創刊60周年、誠にありがとうございます。長きにわたり「情報発信に」ご精励いただき、貴社の皆様への御礼申し上げます。

さて、近年のタクシー業界は、ITを活用した営業の強化により、お客様の利便性が向上しております。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、経済がどのような

公共交通の使命 共有の場

方向に向かい、我々が何をすべきか、一瞬も気を抜けない状況でございます。
どのような状況であっても、公共交通機関の使命として、絶対的な「安全・安心・信頼」と「期待以上のサービスを提供し続けることが求められます。貴紙には、この思いの共有や業界発展の一助となる場として、尽力いただけますようお願い申し上げます。
今後とも、信頼ある情報をいち早く届けたいと考えて、貴紙の「読者」に「公正、正確な報道」に期待しております。また、またの発展をお祈り申し上げます。

みちのりホールディングス代表取締役グループCEO

松本 順



60年前路線バスには車掌がいた。揺れる車内でバランスを取りながら、実に器用に職務を遂行した。バスにとって不可欠の存在のよう

に思えた。しかし、事業経済性の観点もあり、それまでになかった設備が持ち込まれてワンマンバスになった。おそろしく、どこかで「止まらな」ボタンや高機能の料金箱が表装

情報の媒介は重要な機能

され、それが情報として各地にもたらされ、いつのまにかどこにも見られる光景になった。
バス事業は今さらに大きな変化への対応を求められている。感染対策しかり、災害対策しかり、デジタル化による生産性向上しかりである。各地の事業者が新たな策を講じたり、官庁が横断的な政策を発信したりしている。
東京交通新聞には、そうした情報を広く集め、媒介する機能がある。社会的に重要な機能である。真に効果的な施策を大きく報じ、時には厳しく論評し、その機能をさらに高めていきたいと思います。還暦、おめでとうございます。

全国個人タクシー協会会長
(東京都個人タクシー協理理事長)

秋田 隆

創刊60周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。



昨年亡くなった二村前社長には大変お世話になりました。

交通新聞の歩みは個人タクシーの歩みと共にあり、二村前社長は個人タクシー誕生の際にも、尽力いただいたと聞いております。
個人タクシーにとって貴紙は情報

各地の運転者の姿 伝えて

収集に欠かさない存在です。一般の事業者も貴紙を読み、業界の状況や全国の動きを知ることであります。私も開業したときから愛読してきました。
何か要望を申し上げるすれば、各地方で一人一人のドライバーさんがどのような仕事をされているのか、その姿を伝える記事を読みたいと思います。
今、個人タクシー業界は苦しい状況にありますが、タクシー業界全体の景気が良くなるまでは、個人タクシーになる人も増えませんが、仁平社長の下、これからは業界全体を導き、元気にする報道を期待しております。

日個連東京都営業協同組合理事長(全個協副会長)

富本 哲哉



振返ってみますと、個人タクシーが産

声をあげたのが昭和34年1959年であり、御紙にはほぼ同じ時を刻んでまいりました。この60年間、情報技術の進展はめざましいものがあり、もはやパソコンやスマートフ

事業者の良き伴走者として

オンなしでの生活は成り立たないものとなっております。
しかしながら、定期発行「紙ベース」という御紙の役割は非常に大きく、取材力に基づいた公正的確な報道は個人タクシー事業者に評価を得ております。
社会の要請と共に、われわれ個人タクシー業界もより高品質なサービスを提供するため、行政やタクシー業界の情報を知ることが不可欠です。
御紙につきましては、今後とも個人タクシー事業者の良き伴走者となつていただきますよう、より正確な報道を願いつつ、ますますの「発展を心よりお祈りいたします。

第一交通産業社長
(全タク連副会長)

田中 亮一郎



当社も同じく、本年度を持ちまして60周年を迎えることと

した。新しい一年目に向けて、邁進していただきたく、また、交通業界のコンパスでいていただきたく思います。
今年は100年に一度という新型

これからのあり方

コロナウイルスの感染拡大により、世界経済が大きく下降し、経済の停滞が長く続いている状況にあります。その中でも、交通事業者としていくなことが大事だと思っております。
今後、交通業界で働き方改革・生き方改革が推進される中、分りやすく、また、公平性を持つて活字化・紙面化され、われわれにあるべき姿を投げかけていただきたいと思

仙合タクシーグループ社長

佐々木 昌二



いろいろなこと

とに活用させていただいており、大変助かっています。
亡くなった二村前社長には、政界、行政など、いろいろな方々と引き合わせていただきました。そ

共に難局を乗り切ろう

作られた人間関係は今でも生きており、大変感謝しております。
昨年4月、仁平さんが新社長になりました。スタッフを含めて、会社全体がフレッシュで元気になった感じがしています。今後の一層の活躍に期待しています。
本年は、われわれハイヤー・タクシー業界も新型コロナウイルスの流行により、甚大な被害を受け、先の読めない状況にありますが、業界存続のため、さらに努めてまい

本紙創刊60周年記念特集

全国子育てタクシー協会
会長 東宝タクシー社長

大野 慶太

創刊60周年記念に当たり、心よりお祝い申し上げます。変化の激しい



近年のハイヤー・タクシー業界で貴紙の果たす役割は大きく、毎週

楽しみにしています。他社の好事例を共有することで、タクシーの利便性の向上につながった例は数多く、まさに業界の一翼を担っていると考えています。

X・タックス・代表理事
(電脳交通社長)

近藤 洋祐



乗務員不足など多くの経営課題が横たわっている中、新型コロナウイルスの影響により全国のタクシー事業者が受けたマイナスインパクトは計り知れず、わずかな間に、地方を中心に交通崩壊への緊張感が

創刊60周年、おめでとうございます。全国を縦横に走る業界紙の中でも、東京交通新聞は、一番、客観的に物事を見てくれており、大変高く評価しています。
ただ、貴社がタイアパートナーとして関わっている「フォーシ」の足をみながら考える「フォーラム」について言いますと、貴社の立ち位置

ハイタクフォーラム
代表(全自交連委員長)

伊藤 実



交通新聞は、

創刊60周年、おめでとうございます。全日本交通運輸産業労働組合協議会(交通労働協)議長

住野 敏彦



どの業界専門紙として、法制度の改正や産業の活性化

などに関する課題に対し、関係者の考え方や取り組みの実態を分かりやすく掲載されていることに感銘を受けています。
タクシー、バスなどの公共交通は

働く現場や利用者の声を

エッセンシャルな産業でありながら、加速する少子・高齢化、人口減少に加えて、労働環境の悪化による乗務員不足も重なり、厳しい時代が続いています。加えて、新型コロナウイルスのワイズ・コロナ時代における新しい生活様式に相まって、これまでと違った状況が生まれてくると感じます。
貴紙には今後、ポスト・コロナ時代において生じるであろう新たな課題の解決に向けて、働く現場や利用者などの声も取り上げながら、タクシーやバスに共感、親しみを込めていただけたら、業界専門紙になっていただけることを期待していま

耳が痛くなる批判的論調も

今、ハイタク業界が必要としているのは、他の交通モードや、次世代モビリティを狙うフラットフォーマー、地域の足を支えたい自治体、福祉NPOなど、業界の外からの切実な声です。また、近年の交通の諸問題は、従来の輸送実績などの二次データだけでは説明できない複雑な事象が多いように思います。
そうした背景を踏まえると、業界の上下連帯の手段ではなく、私どもの耳が痛くなるような、批判的な論調やデータに接することも重要です。業界内輪の声に必ずしも迎合することなく、独自に取材されたデータや厳しい指摘に啓発される紙面づくりを期待しています。

業界の未来信じ共に発展

一方で、地方を中心に少子高齢化が急激に進む中、「ドア・ツー・ドア」のタクシーサービスの社会的ニーズは高まっており、交通崩壊を業界総出で食い止める、この先の時代もタクシーが人々の移動を支えるという事業者たちの強い「コミット」のもと、「一般社団法人X・Taxi」は誕生しました。
タクシー事業者が欲しい事実の実現を追い求めるわれわれの取り組みを、貴紙には「X・Taxi」設立時から取材、応援をいただき、また、業界の未来信じて、ともに発展を遂げる良きパートナーとして、この激動の時代を乗り越えていきたいと思います。

NPO法人全国移動サービス
ネットワーク理事長

中根 裕

創刊60周年、心よりお祝い申し上げます。



今、コロナ禍で日本経済は大きな苦境を強いられ

O活動も例外ではありません。東京商工リサーチの調査では、今年1月から8月までのNPO法人の休業業・解散件数は1535件となり、今後も増えていくことが見込まれま

日本福祉医療輸送機構理事長

関澤 俊夫



設立の取材に、故武本元社長が取材部長兼記

者として来られたときから、昨日のよう思い出します。以来、事業あること福祉限定輸送などの問題を取り上げていただき、心から感謝申し上げます。

全国運転代行協会会長

丹澤 忠義



も楽しみに

創刊60周年、誠にありがとうございます。貴紙の記事は、ぶれない編集方針と丁寧な取材に基づいており、毎週読むのがとても楽しみです。
今後、仁平社長をはじめ社員の皆様、創業理念を大切にされ、社会にとってなくてはならないメディアとして、一歩一歩、「百年企業」へと近づいていられることを願っております。

常に原点回帰と時代適応を

り上げていただく機会が多くなり、「飲酒運転根絶の担い手である運転代行業」の認知度が随分向上いたしました。心から感謝申し上げます。
貴社の創業である故・二村博三名誉会長は、優良運転代行業者評価認定委員会の副委員長を務めていたこともあり、高い視座から様々な助言を頂戴いたしました。二村名誉会長の喜びの笑顔が脳裏をよぎります。
今後、仁平社長をはじめ社員の皆様、創業理念を大切にされ、社会にとってなくてはならないメディアとして、一歩一歩、「百年企業」へと近づいていられることを願っております。

最前線の現場の思い 伝えて

その後、全国で活動する福祉限定輸送事業者団体が衆議院会館に集まり、限定事業者の声を行政に届けるためにも、「一般社団法人日本福祉医療輸送機構(通称JW.M.T.O)」を設立し、活動してまいりました。また私たちが他の交通機関や地域福祉輸送関連会議に一度もお声掛けがなく、公共交通機関として認知されていないのではないかと、いろいろ思っています。
貴紙には今後とも、医療、福祉、介護輸送の最前線の現場で活動し、地域の現実や利用者の要望を一番強く感じている私たちの思いを伝えていただければと切に願っております。まづ、お願い申し上げます。

重要な局面迎え 役割担い

す。コロナで日常生活のあり方に大きな変化が起きた。求められるニーズは明らかに変わってきています。
これは大局的に見れば、10年後、20年後の日本の姿を表しているとも言えます。人口減少や少子高齢化が進めば当然のように経済は縮小します。人々の暮らし方も大きく変化してきます。今、この状況を打破できる体制・システムを構築できれば、そのまま未来につながります。
その意味では重要な局面を迎えており、それ故に業界専門紙としての貴紙の役割はますます重要となります。今後とも、さらなる活躍を期待しております。

車社会の先導者として期待

as(マス)や自動運転の登場など、車社会が多様化してきていますが、ハードの部分が大きく変革しています。一方、同一労働・同一賃金のといった、働き方改革によるソフトの部分も大きく変わらなくてはなりません。利用者の要望も多様化してきており、年配の方々、子供たちに一層配慮した交通体系の構築も必要です。
その一方で、メディアとしての新聞の役割は非常に重大であり、社会的使命感をもって、車社会の先導者としての活躍を期待しています。今後、運輸業界に関するニュース記事、より幅広く載せていただきたいと思います。